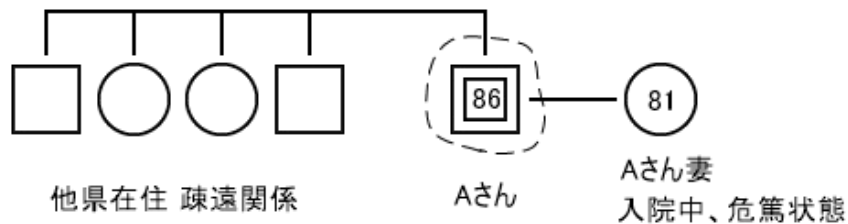


グループワーク事例研修

- ・ グループにわかれて着席していただいています。
- ・ 挨拶など (5分)
- ・ 事例の読み合わせの前に、グループの中で役割分担(発表、進行)を決めてもらいます。

1、事例の読み合わせ

事例説明 10分



Aさん夫婦、子どもなし。夫婦の兄弟はいずれも遠方でかつ交流もほぼない。

Aさんは、86歳、要介護4、ペースメーカー、歩行器使用。食事、トイレ、お風呂などは一人でできるが、家事ができないため、掃除のためのヘルパーや配食サービスを利用し在宅生活を送る。

どこに物をしまったのかわからなくなる等、年相応な物忘れがある。難しい内容のことも噛み砕いて説明をすると理解が得られ、電話やおつりなどの簡単な計算はでき、自らタクシーを呼び、妻の入院先へ外出することができる。今まで、お金の引き出し、家計のやり繰りはすべて妻に任せきりで、自分ではやっていない。Aさんは妻が死亡したら施設に入って生活したいと言っている。

妻は81歳、末期の肺がんで1か月前から入院中、意思は伝えられる状態だが、医師からは余命3か月程度と言われている。この入院のときより、以前から生活の面倒を見てくれている世話好きの知人Bさん(50代近隣女性)に金銭管理を依頼している。

Bさんは夫婦の通帳・カードを預かり、Aさんの生活費の引き出しや妻の入院費の支払いを行っていて、今後も夫婦の金銭管理を続けていきたいと思っている。Aさんも毎日のように声をかけてくれるBさんの存在を頼りにし、両者は非常に良好な関係性にある。AさんはBさんに後見人になって欲しいと考えており、Bさんも長年にわたって夫婦にお世話になったので最期まで面倒を見たいと思っている。

ある日、訪問診療の相談員からケアマネジャーへ、Aさん夫婦のお金を知人が管理していることについて、問題視する意見があり、NPOへ相談があった。また、最近になり、Aさんが大腿骨骨折により入院し、入院費の支払いが必要になっている。Aさんは重要な説明や手続きがよくわからずに困っている。Aさんの親族からは預金の引き出しや手続き等の協力が得られない。なおケアマネジャーは、Aさんについて「日常生活自立度はイチ、短期記憶に問題あり、日常の意思決定を行うための認知能力はいくらか困難、意思伝達能力は伝えられる。」「以前行った長谷川式でぎりぎり認知症ではないと医師から言われたことがある。」と言っていた。

Aさんにはどのような支援が必要でしょうか、相談を受けたNPOは何ができるでしょうか。

※Aさんの収入は年金20万円/月、預貯金1500万円、持ち家がある。

Aさんの妻の収入は年金6万円/月、預貯金はほぼなし。

(※妻への支援はAさんの支援を通じて行う方向で検討してください。)

2、グループワークで検討する点

グループで検討・・・ア)～ウ) 15分

【第1部・アからウまで】

ア) 知人が金銭管理をしていることについてどう評価し、どう取り扱いますか。

イ) このケースは後見制度の対象でしょうか(確認の方法としてどのような手段がありますか)。後見制度以外に考えられる制度はありますか。

ウ) 法定後見制度、任意後見制度、その他の制度、どれを提案すると良いでしょうか。依頼先はどこ又は誰になるでしょうか。

グループ発表	20分
---------------	------------

まとめ講評	ア)～ウ)まで 15分
--------------	--------------------

日自の説明	5分
--------------	-----------

【第2部・エとオ】(法定、任意、その他で各グループごとに検討)

エ) それぞれの本人の生活はどのように変わる予定ですか。その中で後見人やその他制度はどのような働きをする見通しですか。

オ) それぞれの手続きの手順を考えてください。必要となる資料についてもあげてください。

グループで検討・・・エ)オ) 10分

グループ発表(5分×4G)	20分
----------------------	------------

3、振り返り

まとめ講評	10分
--------------	------------

・閉会